

現在の利活用状況

- 特に四季の花々の時期の集客力が高い



佐倉チューリップフェスタ2025 (R7.4.10撮影)

- サイクリストの立ち寄り利用も多い



- 水辺を使ったイベントも多く行われている



印旛沼ダンボールイカダCUP (R6.8.25撮影)

- 新たな集客イベントの展開：現駐車場が活用されており、広いスペースが求められている



沼フェス～沼を遊ぶ一日～ (R7.5.24撮影)

- 水辺への絶好のアクセスポイントとなっている



沼フェス時のカヌーの様子 (R7.5.24撮影)

- パラカヌー体験の場としても活用されている



参考； <https://www.atpress.ne.jp/news/438919>

水草園との接合部で
水辺へアプローチしている

- 隣接する水草園におけるTEIREプロジェクト
(市民団体や学生等により、楽しみながらTEIRE(手入れ)をして水草再生を図る取組)



キックオフイベント (R7.5.24撮影)
ワークショップや水草園の手入れを実施。



千葉興業銀行によるTEIRE活動 (R7.9.27撮影)

過年度検討からの変更ポイント

過年度の検討を踏まえて詳細に検討を行い、以下の赤枠ポイントについて変更した。（下図は、令和6年度計画図）

・人の利用も考慮して勾配を緩くする
・橋詰広場の空間を動線で分断しないようにスロープ位置を変更する

・水辺（堤防法面）とふれあい広場の一体感をより向上させる

・堤防法面と芝生広場、ウッドデッキと一体化、居心地よい空間として、より緩傾斜化（最大1:10程度）を図る

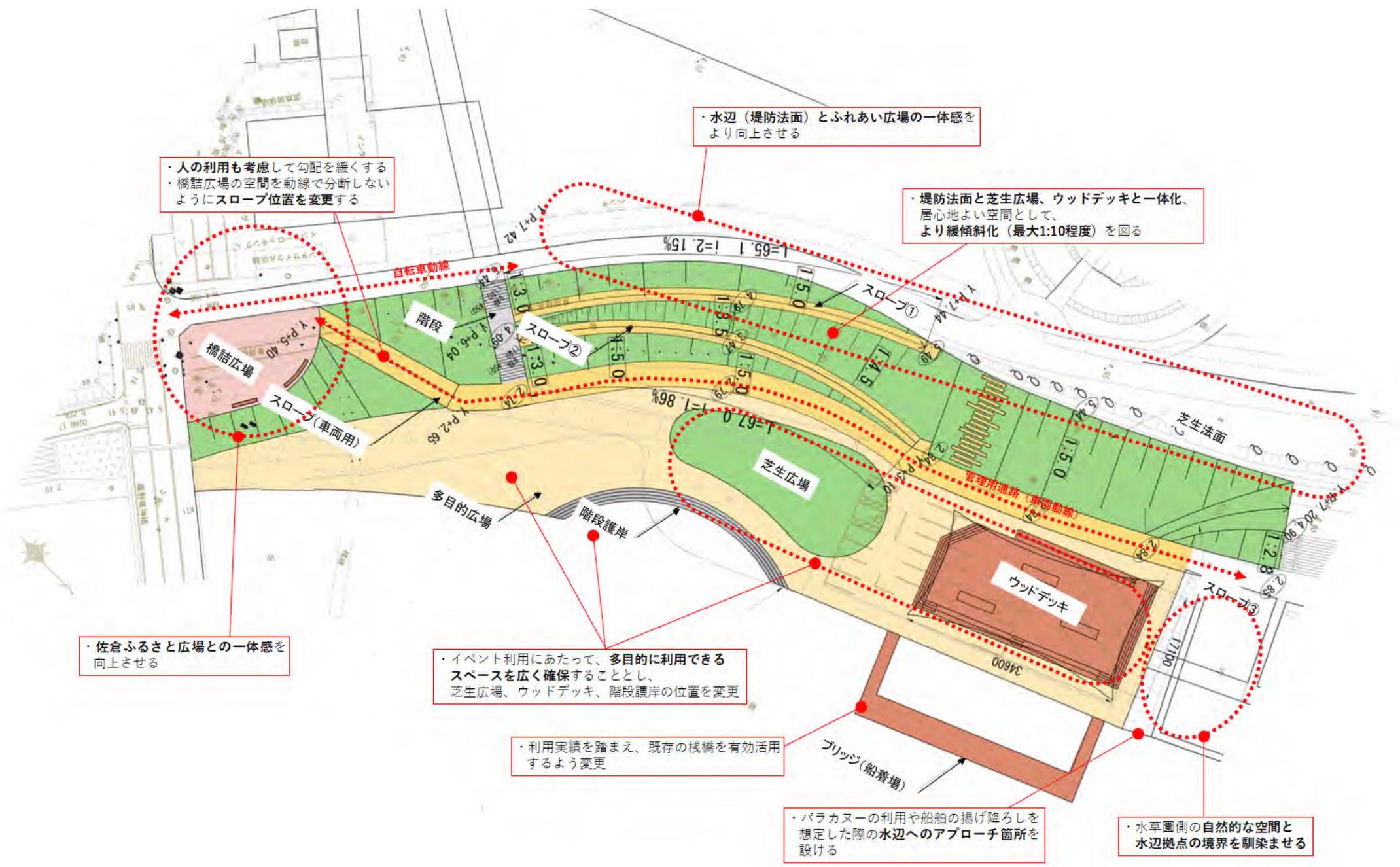
・佐倉ふるさと広場との一体感を向上させる

・イベント利用にあたって、多目的に利用できるスペースを広く確保することとし、芝生広場、ウッドデッキ、階段護岸の位置を変更

・利用実績を踏まえ、既存の棧橋を有効活用するよう変更

・バラカナーの利用や船舶の揚げ降ろしを想定した際の水辺へのアプローチ箇所を設ける

・水草園側の自然的な空間と水辺拠点の境界を馴染ませる



水辺拠点整備計画

- 印旛沼の広々とした水面や周辺の田園風景と調和
- 佐倉ふるさと広場との一体感、行き来しやすい動線
- イベントやアクティビティなどの利用や憩いの場としての機能
- シンプルで洗練された空間

